

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 平成25年11月14日

【四半期会計期間】 第35期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 株式会社ヒガシマル

【英訳名】 HIGASHIMARU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 東 紘一郎

【本店の所在の場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 木通 昌生

【最寄りの連絡場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 木通 昌生

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第34期 第2四半期 連結累計期間		第35期 第2四半期 連結累計期間		第34期	
		自	平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自	平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自	平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(千円)		3,857,228		5,140,472		8,211,025
経常利益	(千円)		134,889		277,236		269,197
四半期(当期)純利益	(千円)		124,717		266,584		265,686
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		111,965		270,888		493,142
純資産額	(千円)		4,548,141		5,162,536		4,929,288
総資産額	(千円)		11,344,221		11,876,891		10,606,682
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)		26.51		56.66		56.47
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)						
自己資本比率	(%)		40.1		43.5		46.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		461,242		438,870		203,818
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		1,495,460		476,808		1,375,430
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		2,640,358		433,065		1,981,034
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		1,523,472		1,700,716		1,293,809

回次		第34期 第2四半期 連結会計期間		第35期 第2四半期 連結会計期間	
		自	平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自	平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)		19.81		47.41

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社、以下同じ。）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、各セグメントに係る主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（食品事業）

当社が全株式を取得した株式会社向井珍味堂が、当第2四半期連結会計期間から連結子会社となりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

株式会社向井珍味堂の株式取得及び子会社化

当社は、平成25年7月31日開催の取締役会において、株式会社向井珍味堂の株式取得及び子会社化について決議し、同日付けで株式譲渡契約を締結いたしました。詳細は、「第4 経理の状況」「1 四半期連結財務諸表」「注記事項」（企業結合等関係）に記載のとおりであります。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策・金融政策等の効果や期待感を背景に、円安により輸出は回復基調で推移し、株価の上昇が資産効果を通じて個人消費を押し上げるなど、景気回復の兆しが見られました。しかしながら、海外経済の停滞や新興国の緩慢な動きによる景気下振れリスクも存在しており、先行き不透明な状況が続いております。また、当社グループを取り巻く環境は、主原料（魚粉・小麦粉）価格の高騰や燃料、石油関連資材、電気料金及び販売輸送費の値上がりの影響を受けております。また、消費者の節約・低価格志向が根強く、企業間の競争も続く厳しい経営環境で推移いたしました。

このような事業環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動の展開とともに収益力の向上に努めてまいりました。一方、事業領域の拡充及び販路拡大など攻めの販売体制を強力に推し進めるなか、本年7月31日に株式会社向井珍味堂を子会社化（100%子会社）いたしました。

なお、株式会社向井珍味堂につきましては、当第2四半期連結会計期間末（平成25年9月30日）を支配獲得日とみなして処理しているため、同社の業績は当第2四半期連結累計期間に含まれておりません。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は51億40百万円と前年同四半期と比べ12億83百万円（33.3%）の増収、営業利益は2億50百万円と前年同四半期と比べ1億28百万円（105.7%）の増益、経常利益は2億77百万円と前年同四半期と比べ1億42百万円（105.5%）の増益、四半期純利益は特別利益に負ののれん発生益が92百万円計上されましたが、法人税等が93百万円増加したことから2億66百万円と前年同四半期と比べ1億41百万円（113.7%）の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

水産事業

水産事業におきましては、養魚用配合飼料の主原料である魚粉は、新興国の需要が底堅く、南米で生産される魚粉相場は依然として高値圏で推移しております。

このような状況のなか、原料高騰分を販売価格に転嫁して値上げを実施したところ、エビ飼料類は前年並みに推移いたしました。魚飼料類は、値上げ前の駆け込み需要があったことやハマチ・マダイ飼料類等の受託生産販売が好調に推移したことから、売上高は36億88百万円と前年同四半期と比べ6億16百万円(20.1%)の増収となりました。セグメント利益は2億59百万円と前年同四半期と比べ14百万円(6.1%)の増益となりました。

食品事業

食品事業におきましては、消費者の節約・低価格志向が継続するなかで、企業間の販売・価格競争が厳しさを増し厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、即席めん類は、価格競争や他社大手メーカーの新商品の販売攻勢を受けたことなどから売上高は減少しましたが、皿うどん類が好調に推移いたしました。また、平成24年7月に子会社化し、前第2四半期連結会計期間末から連結範囲に含めたコスモ食品株式会社のカレールー及びジャム等の販売も順調に推移したことなどから、売上高は14億52百万円と前年同四半期と比べ6億66百万円(84.8%)の増収となりました。セグメント利益は1億33百万円(前年同四半期は156千円)と大幅な増益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ12億70百万円増加し、118億76百万円となりました。これは、主として現金及び預金が6億31百万円、受取手形及び売掛金が6億5百万円増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ10億36百万円増加し、67億14百万円となりました。これは、主として長期借入金が6億50百万円、買掛金が2億53百万円、未払法人税等が1億38百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ2億33百万円増加し、51億62百万円となりました。これは、主として利益剰余金が2億28百万円増加したことなどによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前第2四半期連結累計期間と比べ1億77百万円増加し17億円となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によって得られた資金は4億38百万円(前年同四半期は4億61百万円の支出)となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益3億70百万円、減価償却費1億43百万円、たな卸資産の減少額1億円、仕入債務の増加額2億11百万円、法人税等の還付額2億35百万円などの資金の増加要因があった一方で、負ののれん発生益92百万円、売上債権の増加額4億99百万円などの資金の減少要因があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によって支出した資金は4億76百万円(前年同四半期は14億95百万円の支出)となりました。

主な要因は、定期預金の払戻による収入1億36百万円、有形固定資産の売却による収入61百万円があった一方で、定期預金の預入による支出1億83百万円、有形固定資産の取得による支出1億28百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出3億57百万円があったことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によって得られた資金は4億33百万円(前年同四半期は26億40百万円の収入)となりました。

主な要因は、短期借入金の減少額2億80百万円、長期借入金の返済による支出2億78百万円、配当金の支払額37百万円から資金の減少となりましたが、長期借入による収入10億30百万円の資金の増加があったことなどによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

本年6月27日提出の有価証券報告書に記載のとおり、先行き不透明な経済環境や企業間競争が続く厳しい経営環境のなか、当社グループ丸となって、「企業収益力の向上」、「生産力・販売力の強化」、「マネジメントの改革」を推し進め、競争できる経営体質を進めてまいります。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は86百万円であります。

(6) 従業員数

連結会社の状況

当第2四半期連結累計期間において、食品事業の従業員数が42名増加しております。これは、主として株式会社向井珍味堂の子会社化によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末の従業員数は、次のとおりであります。

セグメントの名称	従業員数(名)
水産事業	114
食品事業	169
全社(共通)	14
合計	297

(注) 1 従業員数は就業人員数であります。

2 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(7) 生産・受注及び販売の実績

生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
水産事業	3,083,153	+ 17.8
食品事業	862,461	+ 54.4
合計	3,945,614	+ 24.3

- (注) 1 金額は、製造原価によっており、セグメント間の取引がある場合は相殺消去後の金額としております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同 四半期比(%)	受注残高 (千円)	前年同 四半期比(%)
水産事業	956,427	+ 98.5	38,894	+ 113.1
食品事業	88,252	10.9	510	63.0
合計	1,044,679	+ 79.9	39,404	+ 100.74

- (注) 1 金額は、販売価額によっております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
水産事業	3,688,294	+ 20.1
食品事業	1,452,178	+ 84.8
合計	5,140,472	+ 33.3

- (注) 1 セグメント間の取引がある場合は相殺消去後の金額としております。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第2四半期連結累計期間		当第2四半期連結累計期間	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
協同飼料株式会社	326,140	8.5	783,085	15.2
株式会社ヨンキュウ	780,801	20.2	754,918	14.7

- 3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		4,746		603,900		393,400

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東 紘一郎	鹿児島県日置市	628	13.23
有限会社ヒガシマル開発	鹿児島県日置市伊集院町徳重28番地	627	13.21
東 勤	鹿児島県鹿児島市	575	12.11
東 実	鹿児島県日置市	575	12.11
ヒガシマル共栄会	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地	230	4.85
株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町6-6	165	3.47
東 吉太郎	鹿児島県日置市	140	2.94
東 久江	鹿児島県日置市	140	2.94
鹿児島リース株式会社	鹿児島県鹿児島市山之口町1番10号	120	2.52
ヒガシマル従業員持株会	鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地	90	1.91
計		3,291	69.35

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,705,000	47,050	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		47,050	

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	40,800		40,800	0.85
計		40,800		40,800	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,580,048	2,211,420
受取手形及び売掛金	1,582,051	2,187,945
有価証券	75,269	78,268
商品及び製品	437,087	454,269
仕掛品	112,515	95,189
原材料及び貯蔵品	963,819	1,085,702
その他	522,909	254,314
貸倒引当金	16,276	11,910
流動資産合計	5,257,424	6,355,199
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,232,938	1,217,263
機械装置及び運搬具(純額)	639,903	723,300
土地	1,968,436	2,089,004
その他(純額)	96,079	45,573
有形固定資産合計	3,937,356	4,075,142
無形固定資産		
のれん	457,467	433,390
その他	34,355	32,255
無形固定資産合計	491,823	465,646
投資その他の資産		
投資その他の資産	962,642	1,045,503
貸倒引当金	42,563	64,600
投資その他の資産合計	920,078	980,903
固定資産合計	5,349,258	5,521,691
資産合計	10,606,682	11,876,891

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	534,018	787,670
短期借入金	2,343,050	2,277,422
未払法人税等	9,436	147,844
賞与引当金	113,378	116,796
その他	302,006	330,678
流動負債合計	3,301,890	3,660,411
固定負債		
長期借入金	1,755,500	2,405,696
退職給付引当金	43,195	73,573
役員退職慰労引当金	383,494	389,654
その他	193,313	185,020
固定負債合計	2,375,503	3,053,944
負債合計	5,677,394	6,714,355
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	3,807,701	4,036,644
自己株式	28,968	28,968
株主資本合計	4,841,032	5,069,976
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,937	43,234
繰延ヘッジ損益	46,318	49,325
その他の包括利益累計額合計	88,255	92,560
純資産合計	4,929,288	5,162,536
負債純資産合計	10,606,682	11,876,891

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	3,857,228	5,140,472
売上原価	3,159,390	4,051,495
売上総利益	697,837	1,088,976
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	176,157	209,464
貸倒引当金繰入額	-	31,441
給料及び賞与	119,613	201,631
賞与引当金繰入額	33,245	33,240
役員退職慰労引当金繰入額	4,518	6,160
その他	242,706	356,914
販売費及び一般管理費合計	576,239	838,852
営業利益	121,597	250,124
営業外収益		
受取利息	164	190
受取配当金	1,791	2,576
為替差益	10,738	12,848
雑収入	25,350	27,299
営業外収益合計	38,045	42,915
営業外費用		
支払利息	11,612	15,585
雑損失	13,142	217
営業外費用合計	24,754	15,803
経常利益	134,889	277,236
特別利益		
負ののれん発生益	-	92,765
特別利益合計	-	92,765
税金等調整前四半期純利益	134,889	370,002
法人税、住民税及び事業税	9,320	79,350
法人税等調整額	850	24,067
法人税等合計	10,171	103,418
少数株主損益調整前四半期純利益	124,717	266,584
四半期純利益	124,717	266,584

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	124,717	266,584
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,955	1,297
繰延ヘッジ損益	761	3,006
為替換算調整勘定	7,558	-
その他の包括利益合計	12,752	4,304
四半期包括利益	111,965	270,888
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	111,965	270,888
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	134,889	370,002
減価償却費	138,695	143,841
のれん償却額	-	24,077
負ののれん発生益	-	92,765
貸倒引当金の増減額(は減少)	577	16,093
賞与引当金の増減額(は減少)	23,949	4,995
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	68,232	6,160
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,637	1,267
受取利息及び受取配当金	1,956	2,767
支払利息	11,612	15,585
為替差損益(は益)	5,519	11,779
売上債権の増減額(は増加)	889,102	499,327
たな卸資産の増減額(は増加)	74,260	100,979
仕入債務の増減額(は減少)	320,047	211,026
その他	131,138	52,223
小計	380,396	225,173
利息及び配当金の受取額	2,394	2,787
利息の支払額	12,259	16,939
法人税等の還付額	1	235,953
法人税等の支払額	39,414	8,105
事業整理に伴う支出	31,568	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	461,242	438,870
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	33,039	183,082
定期預金の払戻による収入	6,001	136,045
有形固定資産の取得による支出	141,302	128,323
有形固定資産の売却による収入	-	61,118
無形固定資産の取得による支出	-	1,280
投資有価証券の取得による支出	13,974	9,047
投資有価証券の売却による収入	-	7,180
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	1,349,917	357,555
その他	36,771	1,862
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,495,460	476,808
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	2,820,000	280,000
長期借入れによる収入	-	1,030,000
長期借入金の返済による支出	142,000	278,020
ファイナンス・リース債務の返済による支出	-	1,273
配当金の支払額	37,641	37,640
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,640,358	433,065
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,045	11,779
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	682,609	406,907
現金及び現金同等物の期首残高	840,863	1,293,809
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,523,472	1,700,716

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
連結の範囲の重要な変更	<p>前連結会計年度において連結子会社でありましたHIGASHIMARU VIETNAM CO.,LTDは、平成25年3月に清算したため、連結の範囲から除外しております。</p> <p>当第2四半期連結会計期間から、株式会社向井珍味堂の株式取得により、同社を連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を当第2四半期連結会計期間末としているため、当第2四半期連結会計期間は貸借対照表のみを連結しております。</p>

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節の変動があります。

したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高が大きく増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金	1,949,978千円	2,211,420千円
預入期間が3か月を超える定期預金	426,505	588,973
有価証券(外貨建MMF)		78,268
現金及び現金同等物	1,523,472	1,700,716

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,641	8	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,640	8	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,071,327	785,901	3,857,228		3,857,228
セグメント利益	244,902	156	245,059	110,170	134,889

- (注) 1 セグメント利益の調整額 110,170千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費104,160千円、営業外収益10,701千円、営業外費用16,712千円であります。
- 2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間にコスモ食品株式会社を連結子会社化したことを主因として、前連結会計年度の末日と比べて当第2四半期連結会計期間末の「食品事業」セグメント資産の金額が2,378,105千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「食品事業」セグメントにおいて、コスモ食品株式会社の全株式を取得したことにより、新たに連結の範囲に含めております。これによりのれんが481,545千円発生しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,688,294	1,452,178	5,140,472		5,140,472
セグメント利益	259,767	133,595	393,362	116,126	277,236

(注) 1 セグメント利益の調整額 116,126千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費116,661千円、営業外収益9,823千円、営業外費用9,287千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間に株式会社向井珍味堂を連結子会社化したことを主因として、前連結会計年度の末日と比べて当第2四半期連結会計期間末の「食品事業」セグメント資産の金額が840,573千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「食品事業」セグメントにおいて、株式会社向井珍味堂の全株式を取得したことにより、新たに連結の範囲に含めております。これにより当第2四半期連結累計期間において特別利益に負ののれん発生益が92,765千円計上されております。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社向井珍味堂

事業の内容 穀粉・香辛料等、香り豊かな粉末商品の製造販売

企業結合を行った主な理由

当社グループの食品事業にこれまでにない独自開発による製造技術、風味を損なわない新しい殺菌・殺虫技術のノウハウと、高付加価値商品の開発、マーケティング手法など補完し合う相乗効果が見込まれると判断したことなどによるものであります。

企業結合日

平成25年7月31日

企業結合の法的形式

現金を対価とする全株式の取得

結合後企業の名称

名称の変更はありません

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とした株式取得により、当社が同社の議決権の100%を取得し支配を獲得するに至ったことによるものであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第2四半期連結会計期間末(平成25年9月30日)を支配獲得日とみなして処理しているため、同社の業績は当第2四半期連結累計期間に含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	株式会社向井珍味堂の普通株式	500,000千円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	60,732
取得原価		560,732

(4) 負ののれん発生益の金額及び発生原因

負ののれん発生益の金額

92,765千円

発生原因

株式の取得原価が企業結合日の時価純資産を下回ったため、その差額を負ののれんとして認識しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益	26円51銭	56円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	124,717	266,584
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	124,717	266,584
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,705	4,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月13日

株式会社ヒガシマル

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 畑 秀 二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 只 隈 洋 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。